

平成 23 年 3 月期 第 3 四半期決算概要

平成 23 年 1 月 31 日

東京瓦斯株式会社

1. 連結決算実績 (22 年 4 月~22 年 12 月)

(1) 全体概要 (連結会社数: 連結子会社 62 社、持分法適用関連会社 4 社)

(単位: 百万 m³、億円、円)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	10,392	9,434	958	10.2	9,488
売上高	10,685	9,653	1,032	10.7	9,197
営業利益	682	435	247	57.0	427
経常利益	681	473	208	43.8	516
四半期純利益	412	316	96	30.4	383
1 株当たり四半期純利益	15.40	11.68	3.72	31.8	14.30
1 株当たり純資産	301.32	301.58	△ 0.26	△ 0.1	255.45

(注 1) 1 株当たり純資産は 22 年 3 月期末との比較

<当四半期決算のポイント> 増収は 2 期ぶり、増益は 2 期連続。売上高は歴代 2 位(過去最高は H20)。経常利益は歴代 2 位(同 H18)

○原料価格上昇に伴う原料費調整制度による売上単価増(347 億円)並びに気温影響及び景気の緩やかな回復等によるガス販売量の増(10.2%)に伴う都市ガス売上高の増(817 億円)○扇島パワーステーションの稼働に伴うその他エネルギー(電力)売上高の増(294 億円)○原油高に伴うガス原材料費の増(917 億円)○21 年度年金資産運用の改善に伴う退職給付数理計算上の差異の負担減(388 億円)による諸給与の減

- ① 売上高は、原油価格上昇に伴う原料費調整制度による売上単価増、並びに年度初めの気温が低く推移したことによる家庭用を中心とした給湯需要の増、夏場の猛暑による業務用を中心とした空調需要の増及び緩やかな景気回復を背景とした工業用既存設備の稼働増から、ガス販売量が 10.2%増加したこと等により都市ガス売上高が 11.6%増の 7,859 億円となったこと、及び扇島パワーステーションの稼働等に伴いその他エネルギー(電力)売上高が 294 億円増加したこと等から、10.7%増の 1 兆 685 億円となりました。
- ② 営業費用は、退職給付数理計算上の差異の負担減 388 億円があったものの、ガス原材料費が原油高の影響により 917 億円増加したこと等により、8.5%増の 1 兆 2 億円となりました。この結果、営業利益は 57.0%増の 682 億円となり、これに営業外損益を加減算し、経常利益は 43.8%増の 681 億円となりました。
- ③ 当四半期及び前年同期は特別損益の計上ではなく、四半期純利益は 30.4%増の 412 億円となりました。

(2) ガス販売量(販売量は 45MJ/m³ 表記)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
お客様件数 千件	10,700	10,593	107	1.0
ガス販売量				
家庭用 百万 m ³	2,133	2,075	58	2.8
業務用 百万 m ³	2,209	2,109	100	4.7
工業用 百万 m ³	4,631	3,935	696	17.7
計 百万 m ³	6,840	6,044	796	13.2
他事業者向供給 百万 m ³	1,419	1,315	104	7.9
合計 百万 m ³	10,392	9,434	958	10.2
平均気温 °C	20.0	19.5	0.5	—

- ① 家庭用需要は、年度初めの気温が前年同期と比較して低く推移した影響で給湯需要が増加したこと等により 2.8%増加しました。
- ② 業務用需要は、夏場の気温が前年同期と比較して高く推移した影響で空調需要が増加したこと等により 4.7%増加しました。
- ③ 工業用需要は、緩やかな景気回復を背景とした既存設備の稼働増及び発電需要が増加したこと等により 17.7%増加しました。
- ④ 他事業者向供給は、年度初めの低気温や夏場の高気温影響、工業用設備の稼働増等に伴う供給先事業者の需要増により 7.9%増加しました。

(3) 収支概要(都市ガス以外の内訳は「(4) 部門別の概況」参照。全社費用は各事業に配賦不能の営業費用)(単位: 億円)

収益	増減	増減率(%)	費用	増減	増減率(%)
都市ガス	7,859	817	都市ガス	4,266	917
			原材料費	2,814	△ 225
			その他	7,081	692
			計	4,004	525
都市ガス以外	4,211	572	都市ガス以外	315	△ 76
			事業間内部消去	1,399	△ 358
売上高	10,685	1,032	営業費用	10,002	784
			費用	682	247
営業外収益	141	△ 24	営業外費用	142	16
			費用	681	208
特別利益	—	—	費用	412	96
			費用	412	96
			四半期純利益	412	30.4

(4) 部門別の概況

(単位: 億円)

	売上高	増減	増減率(%)	営業利益		増減	増減率(%)
	当四半期	前年同期	当四半期	前年同期	当四半期	前年同期	当四半期
都市ガス	7,859	7,042	817	11.6	777	652	125
器具及びガス工事	1,218	1,180	38	3.2	20	23	△ 3
その他エネルギー	1,607	1,127	480	42.6	80	56	24
不動産	248	246	2	0.8	50	55	△ 5
その他	1,137	1,085	52	4.9	56	24	32
都市ガス以外	4,211	3,639	572	15.7	207	159	48

(注 1) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、営業利益には配賦不能営業費用を含んでいません。

(注 2) 前年同期の数値は、前年同期の金額を新セグメントに組み替えた参考値です。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
原油価格 (\$/bb1)	79.67	66.48	13.19	19.8
為替レート(円/\$)	86.85	93.61	△ 6.76	△ 7.2
設備投資(億円)	977	963	14	1.4
有利子負債(億円)	6,496	5,559	937	16.9
その他有価証券評価益(億円)	236	320	△ 84	△ 26.2

(注) 有利子負債、その他有価証券評価益は 22 年 3 月期末との比較

2. 通期(23 年 3 月期)の業績予想

<業績予想のポイント>

○連結業績予想は主に個別の業績予想の見直しに伴い、前回業績予想に対し、売上高は 0.1%減少するものの、経常利益は 0.9%増加の見通し。

○個別業績予想は前回業績予想と比較し、工業用既存設備の稼働減等によりガス販売量が 1.0%下回ること等により、売上高は 0.3%減少の見通し。

○ガス販売量減に伴う粗利の減少があるものの、固定費の削減等により経常利益は 1.1%増加の見通し。

○経済フレームは、1 月以降平均で原油価格 90 \$/bb1、為替レート 85 円/\$と想定。(前回業績予想では、10 月以降平均で原油価格 80 \$/bb1、為替レート 85 円/\$と想定)

(単位: 百万 m³、億円)

	連結決算				(参考)個別決算			
	通期業績 予想	対前期		対前回(10/29発表時)		通期業績 予想	対前期	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)		増減	増減率(%)
ガス販売量	14,584	918	6.7	△ 101	△ 0.7	13,331	181	1.4
売上高	15,240	1,083	7.6	△ 10	△ 0.1	13,150	1,044	8.6
都市ガス	11,277	818	7.8	△ 56	△ 0.5	10,640	532	5.3
都市ガス以外	3,963	266	7.2	46	1.2	2,510	513	25.7
営業利益	1,140	288	33.8	△ 20	△ 1.7	820	229	38.7
経常利益	1,130	295	35.3	10	0.9	930	341	57.8
当期純利益	710	173	32.0	30	4.4	670	282	72.3
有利子負債	5,830	271	4.9	△ 390	△ 6			